



昭和十五年

福井縣統計書

第一編

(土地及戶口等)

福井縣

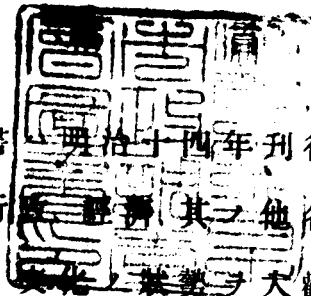
昭和十五年

昭和

十五年

第一編

4.



福井縣統計書 昭和十四年刊行ヲ以テ嚆矢ト
 ナシ爾來縣下行 統計書 其ノ他各般ノ統計ヲ蒐
 集シ既往現在ノ變化ヲ大觀セムカ爲毎年
 之ヲ刊行シ今ヤ昭和十五年統計書ノ編纂ヲ以テ
 第六十回ノ記録ヲ重ヌルニ至レリ。本書編ヲ分
 ツニ其ノ一ヲ土地、戸口等其ノ二ヲ學事、其ノ三
 ヲ産業、其ノ四ヲ警察、衛生トス

各編ニ収録セル資料ハ市役所、町村役場ヨリ
 ノ報告又ハ他官廳、其ノ他公共團體ヨリ直接ニ
 蒐集セルモノ及廳中各課ノ調査ニ依リタルモノ
 ナリ。

蓋シ世運ノ進展ニ伴ヒ統計ノ利用益々多キヲ加
 ヘ來タレルニ鑑ミ内容ノ正確ヲ期スルト共ニ其
 ノ表章方法ニモ逐次改善ヲ加ヘタルモ尙遺憾ナ
 キヲ保セズ將來更ニ檢討ヲ加ヘ時世ノ要求ニ應
 セシムル所アラムトス

昭和十七年三月

福井縣總務部

昭和十五年福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ昭和十五年又ハ昭和十五年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レドモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又ハ已ムヲ得ザルモノハ昭和十四年若ハ昭和十四年以前ノモノヲ掲ゲタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「.....」一位ニ滿タサルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

036224

昭和十五年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

總 說.....	1	33 年齡(十七區分)及配偶關係別人口.....	20
土 地		34 特殊年齡別人口.....	21
1 土地總段別.....	4	35 婚姻、離婚、出生、死産、死亡、總覽(實數).....	21
2 民有有租地々積及賃賃價格.....	4	36 婚姻、離婚、出生、死産、死亡、總覽(比例).....	22
3 民有無租地.....	5	37 夫妻相互ノ婚姻前ノ配偶關係組合ヨリ 見タル婚姻件數.....	22
4 年期地積及賃賃價格.....	6	38 離婚當時ノ年齡ニ依リ分チタル離婚者數.....	22
氣 象		39 協議上ノ離婚、裁判上ノ離婚.....	23
5 測候所.....	6	40 月別出生、死亡、死産.....	23
6 氣壓氣温及濕度.....	7	41 父又ハ母ノ職業ニ依リ分チタル出生數及 死亡者ノ職業ニ分チタル死亡數.....	24
7 平均氣壓.....	7	42 日齡又ハ月齡ニ依リ分チタル一歳未満 死亡數.....	24
8 平均温度.....	7	43 原因別死亡.....	26
9 平均濕度.....	8	44 胎兒ノ月數ニ依リ分チタル死産數.....	27
10 平均曇量.....	8	交通及通信	
11 降水日數及降水量.....	8	45 道 路.....	27
12 降雪日數及期節.....	9	46 私設鐵道.....	28
13 快晴日數.....	9	47 私設鐵道運輸.....	28
14 曇天日數.....	9	48 郵 便.....	32
15 暴風日數.....	9	49 電 報.....	33
16 結霜日數.....	10	50 電話加入者數.....	34
17 最多風方位.....	10	51 電話料收入.....	34
18 風ノ速度.....	10	52 ラヂオ聴取者.....	34
19 風ノ平均速度.....	11	53 諸 車.....	35
20 沿海及河川流域雨量.....	11	54 海岸延長及港灣.....	35
21 地方暴風雨信號所.....	12	55 港灣ノ狀況.....	36
22 暴風雨標.....	12	56 燈 臺.....	36
23 地震計.....	12	57 浮 標.....	36
24 地震觀測回数.....	13	58 港灣入港船舶ノ隻數及噸數.....	37
戶 口		59 敦賀浦蘆斯德間汽船乗降客人員.....	37
25 市町村別面積.....	13	60 船 舶.....	33
26 市郡別人口.....	14	土 功	
27 市町村別人口.....	15	61 水害員數.....	38
28 推計人口.....	18	62 水害損失價額.....	39
29 普通世帯及其ノ人口.....	19	63 工事別土木費決算.....	40
30 現在人口、一時現在者一時不在者及常住人口.....	19	64 工種別土木費決算.....	40
31 人口階級別市町村數及人口.....	19		
32 配偶關係別人口.....	20		

社寺及宗教

65	神社及神職	41
66	寺院及僧侶	42
67	各宗派別寺院	42

兵 事

68	壯丁体格等位	44
69	壯丁身長及體重最高最低	44
70	海軍志願兵	45
71	日本赤十字社員及年禮金	45
72	愛國婦人會	46

議 會

73	貴族院多額納稅者議員互選者	47
74	衆議院議員選舉	49
75	縣會議員選舉	50
76	縣會議員選舉無効投票	51
77	縣會及縣參事會	51
78	福井市會議員選舉	51
79	敦賀市會議員選舉	51
80	福井市會及市參事會	52
81	敦賀市會及市參事會	52
82	町村會	52

官 公 吏

83	縣廳各部分課	52
84	縣職員	53
85	地方待僱職員	54
86	休職官吏及員職員	55
87	市吏員	55
88	町村吏員	56

財 政

89	縣市町村水利土功組合歲入歲出	56
90	直接稅負擔	57
91	國 稅	58
92	地 租	58
93	所得稅	60
94	相續稅	64
95	所得稅種類別決定額	66
96	織物消費稅	66
97	營業稅	68
98	酒造稅	70
99	國稅滯納人員及金額	70
100	租稅外國庫收入	72

101	國庫支出縣經費	72
102	特別會計ニ屬スル縣歲入歲出	74
103	縣稅滯納處分	75
104	縣歲入	75
105	縣歲出	76
106	縣 稅	78
107	市歲入	80
108	市歲出	80
109	市 稅	82
110	福井市瓦斯事業費歲入	82
111	福井市瓦斯事業費歲出	84
112	福井市水道事業費歲入	84
113	福井市水道事業費歲出	84
114	町村歲入	86
115	町村歲出	86
116	町村稅	88
117	普通水利組合歲入	98
118	普通水利組合歲出	89
119	水害豫防組合歲入	90
120	水害豫防組合歲出	90
121	縣有財產ノ一	91
122	縣有財產ノ二	93
123	縣有財產ノ三	93
124	市基本財產	93
125	町村基本財產	94
126	市 債	94
127	町村債	96

其 他

128	篤行奇特者	96
129	瓦 斯	97
130	瓦斯製造高消費高	98
131	瓦斯火口數及料金	98

總 說

位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始リ西ハ東經百三十四度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク油蓋ト相對ス。

地 勢

越前ハ四面山ヲ繞ラシ中央ニ一盆地ヲ包擁ス、所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。東北加賀白山ヨリ起レル山脉ハ別山ニ至リ岐レテ二脉ト爲リ重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ヲ走り大日、油坂、龜帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ、一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ足リテ經ケ嶽、鶯ヶ嶽、淨法寺、丈壁ノ諸山トナリ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ヅク。國境山脉ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛騨ノ境ニ連エー千九百六十二米白山火山脉ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蜂房セル一脈アリテ國見、鷹巢越知ノ諸山トナリ山脉海ニ迫リテ平地ヲ見ズ、奇巖屹立シ激浪岩ヲ噴ムノ地多ク北端餘脉盡クル所僅カニ砂丘ヲ形成ス。

河川ハ概シ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千仞ノ溪谷ヲ奔リテ隨所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流レ、ニ及ビテ流域一帯ヲ灌溉ス、平垣部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豐饒ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、ハツ峯、西方ニ青葉山等ノ峰巒國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ少ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ産穀ノ發達ヲ來タスニ至レリ。

海岸線ノ總延長百九十八軒ニ達シ嶺北沿岸一帯ノ屈曲ニ乏シク港灣ノ見ルベキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚シダク頗ル肢節ニ富ミ岬角參差トシテ複雜極マリナキ形貌ヲ有ス、越前岬ヨリ西北京都府經ケ岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狹灣ニシテ古來新層、沈降、隆起、浸蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀬戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ、灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ、裏日本海運上ニ幾多ノ將來ヲ有ス。

廣 袤

總面積四千二百六十四方軒餘ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十三位、山梨縣ニ比シ狹ク、富山縣ニ比シ稍大ナリ。然レ共

山地三分ノニヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニハ利用面積少シ。

土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬九千八百十町五段、内官有地五千四百六十二町六段、民有地二十三萬四千三百四十七町九段ナリ、民有有租地ハ十八萬五千三百五十五町三段ニシテ約七割ニ當リ民有無租地及年期地ハ四萬八千九百九十二町六段ナリ。之ヲ種類別ニ見レバ官有地ハ山林四千七百四十四町三段、公立學校及官公署敷地七百十八町三段、有租地ハ山林十一萬六千六百六十八町、田四萬八千六百八十四町三段、畑一萬二千六百四十二段、宅地五千六百六十六町一段ヲ主ナルモノトス。

戶 口

世 帯 及 人 口

昭和十五年十月一日現在(國勢調査)本縣二市十一郡ノ人口總數ハ六十四萬三千九百四人ニシテ之ヲ前回ノ調査ニ比スレバ二千七百五十五人ノ減少ヲ見タリ。

人口總數ヲ男女別ニ觀レバ男三十一萬二千七十五人、女三十三萬一千八百二十九人ニシテ、女百人ニ付男九十四人ノ割合ニ當ル之ヲ前回ノ調査ニ比スレバ、男ニ於テ四千三百四十九人減少シ、女ニ於テ千五百九十四人ノ増加ヲ示シ女ニ對スル男ノ割合ハ前回調査ノ結果タル九五・八人ニ比シ前記ノ如ク一・八人ノ減少ヲ見タリ。

本縣ノ總人口ヲ全國總人口ニ對スレバ0.88%ニ該リ府縣中第四十四位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就キテ見ルニ大正九年ハ1.07%第四十三位、大正十四年ハ1.00%第四十四位、昭和五年ハ0.96%第四十四位、昭和十年ハ0.93%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對スル割合ハ調査毎ニ遞減シタリ。

人 口 ノ 分 布

次ニ縣内人口ノ分布狀況ヲ觀ルニ十二萬五千九百四十一人(19.6%)、ハ福井、敦賀ノ兩市ニアリ各郡中人口ノ最モ大ナルハ坂井郡ノ九萬八千九百八十八人(15.2%)、ニシテ大野郡八萬一千二百九十五人(12.6%)、今立郡六萬二千五百五十四人(9.7%)、丹生郡五萬六千四百五十八人(8.8%)、吉田郡五萬一千四百九十二人(8.0%)、之ニ亞キ敦賀郡ノ一萬四千九百九十九人(2.2%)、最モ少シ。

前回調査ニ比シ人口増加ノ最モ大ナルハ吉田郡ノ二千七十二人亞イテ大野郡千四百四十四人、福井市千二百四十人、敦賀市四百三十五人、大飯郡二百七十三人ニシテ人口減少ノ最モ著シキハ坂井郡ノ二千二百二十三人ニシテ、丹生郡ノ二千十九人、遠敷郡ノ千六百五十四人、南條郡ノ千二百七十五人、今立郡千六百三十三人、順次之ニ亞ク然レ共之ヲ増加(減少)割合ヨリ觀ルトハ増加郡市ニ在リテハ吉田郡ノ4.2%最モ高ク大野郡1.8%大飯郡ノ1.5%敦賀市ノ1.4%福井市ノ1.3%之ニ亞キ減少率ノ最モ高キハ遠敷郡ノ3.7%丹生郡ノ3.5%

南條郡ノ2.8%坂井郡ノ2.2%今立郡ノ1.8%順次之ニ亞グ次ニ男女割合ヲ都市別ニ觀レバ女ニ對スル男ノ割合多キハ敦賀郡ノ女百人ニ付男百二人三ノミニシテ他ノ都市ハ總テ男ノ割合少ク足羽郡ノ八十八人六ヲ最少トス。而シテ男ノ割合前回ニ比シ大野、今立、三方、遠敷、大飯ノ各郡ニ於テ若干増加ヲ見タル外他郡市ハ孰レモ減少シタリ。

人口ノ密度

本縣ノ總面積四千二百六十四軒四八ヲ以テ總人口ヲ除ストキハ一方軒當人口百五十一人ニ當リ、前回ニ比シ一人ノ減少ヲ示シタリ。

之ヲ都市ニ付キ見ルニ福井市ハ四千二百三十四人、敦賀市ハ六〇〇人ヲ示スニ反シ郡部ハ僅カニ二百二十四人ニ過ギズ、尙之ヲ各郡ニ付キ觀レバ吉田郡ノ三百二十八人、坂井郡ノ二百三十八人ヲ最高トシ敦賀郡ノ七十一人、大野郡ノ六十三人ヲ最低トス。

交 通

道 路

交通ノ狀況ハ國道二路線、府縣道二百十三線此ノ總延長百九十萬五千九百八十三軒ニシテ面積ニ比シ少カラザル山地割合ニ多キ關係上其ノ一部或ハ險路峻坂ト爲リ幅員狭少ト爲ルヲ以テ毎年之ガ改良ニ多額ノ經費ヲ投ツ、アリ。

社 寺 及 宗 教

神社及神職

昭和十五年本縣ノ神社總數ハ千六百六十五社、神職、百九十八人アリ、内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社一、國幣小社一、縣社二十七郷社四十七、村社百二十七、無格社三百七社等ナリ。

寺院及僧侶

本縣ハ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和十五年末ニ於ケル寺院總數ハ千六百六十二、住職千五百九十九人ヲ計ヘ、寺院一ニ付世帯八十ノ割合ニ當ル、寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ真宗ノ八百七十二最モ多ク、顯下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞クハ曹洞宗二百七十一、日蓮宗百四十六、天台宗百十四、淨土宗百〇三、臨濟宗七十七、眞言宗五十八、時宗二十、黃蘗宗二等ナリ。

官 公 吏

縣 職 員

昭和十五年十二月末日現在ニ於ケル本縣職員ハ千三百七十七人ニシテ其ノ俸給九十一萬七千二百七十圓トナル内、勅任一人奏任二十四人、同待遇者七十六人、判任二百十三人、同待遇

者八百四十七人、雇員百三十九人、嘱託十七人ヲ計ヘタリ。

市 吏 員

昭和十五年末ニ於テ市長一人、助役三人、收入役二人、主事十一人、技師四人、書記百十二人、技手二十二人、其ノ他百五人、總數二百六十人ニシテ之ノ内、名譽職市長一人ヲ除ク俸給總額ハ十五萬九千二百四十九圓ヲ計フ、此ノ外名譽職ニ屬スル常設委員四十七人、區長九十九人、區長代理者九十九人ヲ併セ五百五人アリ。

町 村 吏 員

昭和十五年末現在ニ於テ町村長百六十二人、助役百三十四人收入役百五十五人、區長二千十四人、區長代理者千九百八十一人、書記八百三十七人、技手及技術員二十人、常設委員千四百六十七人、書記補三十人、其ノ他百二十九人、總數六千九百五十四人トナリ、名譽職五千七百五十八人ヲ除キタル有給吏員ノ給料年額ハ四十八萬九千七百六圓トナル。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅カニ二十八萬三千餘圓ニ過ギザリシガ、日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來タシ、明治二十九年ニ到リテ約三倍ニ上リ加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ノ増高ヲ來シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ルニ必要ニ迫リ明治三十五年及同三十七年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰得ノ經營ト時運ノ進歩トニ伴ヒ益々財產ノ膨脹ヲ來スニ至レリ。加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然事業ノ増加ヲ來タシ、縣債ハ愈々膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ体シ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通ジテ極力整理緊縮ヲ政行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ、其ノ他縣民福利増進上已ラ得ザルモノ等アルタメ、昭和十五年度ノ決算ハ千二百八十九萬九千九百八十八圓ニ達セリ

之ヲ前年ニ比スレバ四百十九萬九千五百五十九圓増高シ、又之ヲ十年前ノ昭和六年度決算六百二十二萬三千三百三十九圓ニ比スレバ六百五十八萬六、五百七十九圓ノ増高ヲ來セリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和十五年度ニ於テ市費三百四十四萬八千二百七十一圓、町村費六百十四萬四千三百三圓、何レモ豫算ニシテ之ヲ市町村勢實施ノ翌年タル明治二十三年ニ比スレバ市町村費ヲ通ジテ更ニ二十五倍ノ多額ニ達セリ。縣ハ不斷銳意緊縮ノ方針ヲ以テ之ヲ率フル所アリシモ社會ノ進展ニ伴ヒ教育、土木、產業、其ノ他ノ施設ニ迫ララル、ノミナラズ支那事變ノ影響ヲ受ケ自然經費ノ膨脹ヲ餘儀ナカラシメタリ。

諸 稅 及 負 擔

昭和十五年度本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅
千百六十四萬三千五百三十九圓、縣稅二百十九萬六千三百六
十二圓、市町村稅（豫算）四百二十三萬二千九十九圓ニシテ

之ヲ一世帯當ニ觀ルトキハ直接國稅八十七圓九十六錢、縣稅
十六圓五十九錢、市町村稅三十一圓九十八圓トナル。

21013